

アンナプルナ脳神経センター 医療協力会

Association for Annapurna Neurological
Institute Japan



AANI (アーニー) とは

私たちは、ネパールの脳神経医療の発展に寄与し、あわせて脳神経外科医を育成することを目的とした市民による国際医療協力NGO(非政府組織)です。アンナプルナとはヒマラヤの最も美しい山の一つで、脳神経医療をネパールに根づかせ、育てたいとの思いからこの名前にしました。

AANI (アーニー) の役割

広島大学医学部脳神経外科学教室にてPHDを取得し、カトマンズ・モデル病院で脳外科を開始したネパール人脳外科医Dr.バサント・パント氏と共に、人材育成、患者さんのリハビリテーション、教育プログラムを実施。総合的な医療協力を目指します。最終的には、脳神経外科・神経内科を共に充実させ、ネパール全体の医療水準を引き上げたいと考えています。

どうしてAANI (アーニー) が必要なんだろう

現在、ネパールに脳神経外科医はわずかしかおらず、技術も設備も十分ではありません。また、ネパールでは圧倒的にその部門の医師が不足しているため、さまざまな問題が生じています。AANIは、日本とネパールの脳外科医の交流、技術移転、教育を促進する役割を果たしています。



ネパールでは交通事故が多発しており、硬膜外血腫のように本来なら適切な治療で救命が可能なもので、多数の方が死亡しています。

脳腫瘍、脳脊髄の結核症、先天奇形、水頭症などで苦しむ子供たちがたくさんいますが、治療を受けられなまま放置されています。

ネパールの 脳神経外科を とりまく現状

病院に来るために、何日もかけて歩いてこなければいけない人もいます。

経済的に余裕のある人たちのみが、インドやその他の外国へ出かけ、治療を受けられるという状態ですが、それにも多額の費用がかかります。

海外で脳神経外科学を学び、ネパールへ戻った医師たちも、働き場がないために国外へ再び流出するケースが多く、悪循環が生じています。

ネパールに愛の手を！
救おう。脳神経の病気で
苦しんでいる患者さんを！



アンナプルナ脳神経センター
医療協力会

会長 森信 香樹

アンナプルナ脳神経センター医療協力会役員

顧問	魚住 徹	日比野病院顧問
顧問	菊池 晴彦	神戸市立中央市民病院院長
顧問	大西 英之	大西脳神経外科病院院長
会長	森信 秀樹	森信建設株式会社代表取締役
副会長	栗栖 薫	広島大学大学院脳神経外科学教室教授
副会長	有田 和徳	鹿児島大学大学院脳神経外科学教室教授
副会長	渡部 朋子	渡部総合法律事務所事務局長(事務局担当)
会計監査	井林 孝二	井林公認会計事務所所長
幹事	隅田 昌之	広島赤十字・原爆病院脳神経外科部長
幹事	江口 国輝	広島大学大学院脳神経外科学教室講師
幹事	飯田 幸治	広島大学大学院脳神経外科学教室助教
幹事	清水 正弘	深呼吸クラブ代表
幹事	大庭 智	日通商事株式会社 山陰支店
事務局	矢野 孝江	
事務局	大本 有希子	
事務局	生村 真紀	



AANI
Association for Annapurna
Neurological Institute Japan

AANIのかわいい!?キャラクターを紹介します。名前は「イエティ」。ヒマラヤに住んでいると言われる「雪男」をモチーフにしています。手にもっているのは希望のランプ……。さまざま人々を優しく導く人柄を表現しています。

お問い合わせ

AANI (アンナプルナ脳神経センター医療協力会)

〒730-0013 広島市中区八丁堀1-17 大本ビル6F 渡部総合法律事務所内

TEL:082-502-6304 FAX:082-502-6305

MAIL aani@hiroshima-cdas.or.jp

HP <http://www.aani.org.np/>


BLG <http://blog.so-net.ne.jp/aani/>




1991 ネパール国より留学生Basant Pant Raj (パント) 医師が広島大学脳神経外科学教室の大学院に入学

1993  アンナプルナ脳神経センター医療協力会 (AANI) の前身であるアンナプルナ病院設立準備委員会 (ANISC) を組織化し、第一回定例会を開催

1995 医学書を国立トリブバン大学医学部に寄贈 ANISCメンバーによる現地事前調査を実施 脳波計と付属部品の一書を寄贈

1996 広島大学脳神経外科学教室の栗栖薫教授、隅田昌之医師がトリブバン大学医学部を訪問
NGOとしてアンナプルナ脳神経センター医療協力会 (AANI) を設立し、初代会長に松井五郎 (国際ロータリー第2710地区パストガバナー) を選任 

1997 パント医師が留学を終えネパールに帰国
トリブバン大学医学部 (TUTH) と広島大学医学部との学部間協定締結 TUTHに脳波計と医学書を寄贈
広島大学脳神経外科学教室より、有田和徳助教授 (現鹿児島大学脳神経外科学教授)、隅田医師をTUTHへ基礎調査団として派遣

1998  Amatya Bishwa Jeet (アマティア) 医師が広島大学第2病理学教室に留学

1999 日本国内でネパールを支援するNGOが加盟する【ネパールNGO連絡会】第9回総会に参加し、他団体 (NGO) とのネットワークを深める
脳外科医療の技術移転のため、有田助教授がネパールを訪問 栗栖教授がTUTH医学部教育病院を訪問

2001 パント医師の勤務するカトマンズモデルホスピタルへデジタルカメラを贈与 (このカメラで撮影した画像とインターネットによって、在日医師の所見を適宜に受けられ、ネパールの医療技術向上につながる)




2002 パント医師とPrabin Shrestha (プラビン) 医師が香港で開催される第4回アジア脳神経外科学会出席のための旅費支援
有田助教授と隅田医師が技術移転のためネパールを訪問



2003 広島大学脳神経外科教室から栗栖教授、大庭信二医師、岡崎貴仁医師をカトマンズモデルホスピタルへ医療技術移転のために派遣臨床技術移転のため、堀智勝医師 (東京女子医科大学脳神経外科主任教授) をネパールへ派遣
手術着、医療雑誌・医学書617冊をネパールへ寄贈



2004 ネパールスタディーツアー実施。カトマンズモデルホスピタル訪問、栗栖教授とパント医師による共同手術実施、脳腫瘍の講演会等
有田助教授が、パント医師の支援でネパールを訪問
パント医師の下でレジデントとして働いていたプラビン医師が広島大学大学院脳神経外科学へ留学 

2005  パーキンソン病患者の手術治療、小児脳性麻痺の歩行改善のため平孝臣医師 (東京女子医科大学脳神経外科講師) を派遣。手術道具として、脳外科手術用電気ドリルを寄贈
プラビン医師の奥様Isha (イシャ) 医師が広島大学脳神経内科へ留学

2006 パント医師、プラビン医師のインド・ムンバイでの第6回アジア脳神経外科学会出席のための旅費を支援
パント医師帰国後8年が経過したため、帰国後の活動報告や、ネパール医療の現状を理解してもらう目的で、「脳神経外科医としてのネパールでの8年間」の冊子を制作



ネパールの脳神経外科医療活動の現状とAANIの活動をより多くの方々に知っていただくためホームページ制作 (英語版、日本語版)

第2回ネパール・日本脳神経外科学会にAANIメンバーも参加。世界脳神経外科連盟 (WFNS) の副会長であるアルビーノ・プリコロ教授 (イタリア ペロナ大学) や同じくWFNSの副会長である神野哲夫 (藤田保健衛生大学) 名誉教授も参加 

2007  広島県海外技術研修員受入れ事業でHemav Rajbhandari (ヘマブ) 医師を受入れ
※7月28日～12月14日

あなたもAANIの一員になりませんか？

私たちの趣旨に共感して下さる会員の方を募集しています。会員の方には、AANIの活動報告などを掲載した通信をお送りします。また一般寄付や、私たちと一緒に活動して下さるボランティアの方も同時に募集しています。ぜひ、ご連絡ください。ネパールでの脳外科医療の人材育成や医療技術移転のためにご支援をお願いいたします。

【会費】個人会員 (年間) 一口 10,000円
法人会員 (年間) 一口 50,000円
※随時、寄付も受け付けております

【申込先】AANI事務局 渡部朋子 (わたなべともこ)
TEL.082-502-6304 FAX.082-502-6305
E-MAIL: aani@hiroshima-cdas.or.jp

